

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 1 月 15 日作成)

小委員会名	構造物の性能最適化とロバスト性小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 応用力学運営委員会	主 査 名：竹脇 出 就任年月：2005 年 4 月
設 置 期 間	2005 年 4 月 ～ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・性能最適化、ロバスト性、不確定性、冗長性（リダンダンシー）、信頼性などの概念の整理に基づき、これらの概念の相互関係を明らかにする。 ・ロバスト性やリダンダンシーの概念が実際の建築設計で考慮されている例などを調査し、分析を行う。また、ロバスト性に優れた構造設計のあり方について提案する。 ・2008 年度に大会 PD を開催 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	竹脇 出 (京都大)、山川 誠 (京都大)、浅岡泰彦 (大林組)、朝川 剛 (日建設)、上谷宏二 (京都大)、寒野善博 (東京大)、曾我部博之 (愛知工大)、高田豊文 (三重大)、堤 和敏 (芝浦工大)、中西啓二 (清水建設)、中村尚弘 (竹中工務店)、西谷 章 (早稲田大)、山田和彦 (鹿島建設)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2008 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	1. PD：建築構造設計における冗長性と頑強性の役割 ーリダンダンシーとロバスト性とはー 参加者数 70 名 『構造部門 (応用力学) パネルディスカッション資料：同上』
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	2 回の小委員会において、性能最適化、ロバスト性、不確定性、冗長性（リダンダンシー）、信頼性などの概念の整理を行い、ロバスト性とリダンダンシーの相違について整理を行った。また、2008 年度大会 PD を企画して実施し、当初予定通りの成果を挙げた。
委員会活動の問題点 ・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各委員からの調査報告・分析を PD 資料として纏めた。 2. 概念の整理には、その意味を端的に示すわかりやすい図が有効であると思われるので、そのような方向で検討を進めつつある。 3. この小委員会で達成できなかった点については、次期の小委員会で行う。